

教育委員会定例会議事録

令和2年10月20日 午後2時00分 開議

出席委員

教 育 長	高 本 訓 久
委 員	菅 沼 由 貴 子
委 員	渡 辺 時 行
委 員	戸 荻 恵 理 子
委 員	山 田 清 志

説明のための出席者

教育部長	原 田 潔
教育部次長	高 橋 純 司
教育部次長兼学校教育課長	河 原 克 明
教育部次長兼中央図書館長	近 藤 慎 一
庶務課長	酒 井 保 吏
生涯学習課長	林 弘 之
スポーツ課長	梅 野 忠 彦
学校給食課長	林 俊 光
中央図書館主幹	尾 崎 浩 司

教育長が指定した事務局職員

主 事	柴 田 訓 代
-----	---------

議事日程

- 第1 議事録署名委員の指名
- 第2 第26号議案 教職員の任用について（非公開）
- 第3 第27号議案 令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書について
- 第4 その他報告 豊川市図書館基本計画改定に伴う市民アンケート等の実施について

「高本教育長」 定刻になりましたので、ただ今から教育委員会を開会し、直ちに会議を開きます。始めに、日程第1「議事録署名委員の指名」を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、菅沼・渡辺両委員を指名いたします。よろしくお願ひします。

「高本教育長」 続きまして、日程第2、第26号議案「教職員の任用について」を議題といたします。なお、本案は教職員の人事に関する案件ですので、議事を非公開とし、会議内容の議事を別に記録することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

「高本教育長」 異議なしと認め、本件は非公開で行います。それでは、事務局からの説明をお願いします。

「河原教育部次長」 第26号議案「教職員の任用について」を資料に基づき説明。

(以下、議事内容は個人情報に関わるため議事を非公開)

「高本教育長」 続きまして、日程第3、第27号議案「令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

「酒井庶務課長」 第27号議案「令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を資料に基づき説明

「各課長」 「令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書」に沿って説明。

「高本教育長」 本件に関しては、7月定例会にて各課から自己評価の説明がなされ、教育委員の皆様からもご意見をいただいたものです。その後、3名の学識経験者による点検、評価を8月、9月と2回にわたり実施したものととなります。各課からの説明にもありましたとおり、点検評価委員からは、「良好」という評価を多くいただいたとのことです。この件について、ご質疑がありましたらお願いします。

「戸荻委員」 学校給食課の「食に関する指導の充実」についてお伺いします。学校給食課のアンケート結果の中で、豊川市の中学校2年生で朝食を「あまり食べない」若しくは「食べない」と回答した生徒の割合が、愛知県下の平均よりも高い結果であるとのことでした。一方で、給食の残食率については、豊川市の中学生は、愛知県下の平均よりも非常に少ないという結果でした。これを受けて生徒たちに、朝食の大切さを指導する必要があるということでしたが、中学生になってからというよりも、小学生のうちからそのような指導をすることが良いのではないかと思います。各学年に対して、毎年指導を続けていくことで、改善されていくのではないかと思います。朝食については、各家庭の事情もあるかもしれませんが、保護者とも連携して指導していくことが良いのではないかと思います。

「高本教育長」 戸荻委員から発言があったとおり、その段階になってから手を打っていくというのは後手の対応という印象を受けます。小学校の段階から朝食の大切さを指導していくことが大切なのではないかという意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

「林学校給食課長」 市内2か所の給食センターには、栄養教諭が3名ずつ配置されていますが、各学校をまわりながら、授業や給食の時間を利用して、朝食の大切さをはじめとした食事の指導をしています。このようなご意見をいただいたこと、センタ

一に持ち帰り、共有させていただきます。補足となりますが、朝食を食べない理由をアンケートしたところ、最も多い理由は「食欲がない」というもので半数を占めていました。食欲がない要因をさらに調べる必要があるかもしれませんが、夜寝るのが遅いなどの問題が含まれているのかと思います。今後も検証を重ね、朝食をきちんと食べる子どもたちを増やしていく必要があると考えています。

「高本教育長」 14歳の子どもが朝から食欲がないというのは異常な事態とも言えます。今発言があったように、生活習慣が要因となっているのかもしれませんが、戸蒞委員が言われたように、各家庭環境が関係しているのかもしれませんが、また、部活動の朝練が関係しているのかもしれませんが、学校給食課だけでなく、様々な課と連携しながら、取り組んでいただきたいと思います。

「渡辺委員」 このアンケート結果は、アンケートに回答した子供たちには示されているのでしょうか。数字なので、この結果が多いのか少ないのかというのは個々によって判断が分かれるのかもしれませんが、私としては、朝食を食べない生徒たちの割合が豊川市では8.9%、愛知県内の平均では5.2%と決して多いわけではなく、きちんと食べている生徒のほうが圧倒的に多いというイメージを受けます。例えば、この結果を知らしめた際に、それを見た生徒が、自分は少ないグループに入っているのだと認識し、他の大多数の生徒と同じようにきちんと朝食を食べなければいけないと感じるということもあるのかと思います。生徒たちにアンケート結果を開示することで、そのような流れが生じるケースもあるのかと思いましたので伺いました。

「林学校給食課長」 学校に対してアンケート結果をお知らせしていますので、各学校でこのようなデータをうまく活用して指導いただければと思います。また、給食センターの栄養教諭も、各学校を巡回指導する中で、このような結果を話す機会があると思いますので、このようなご意見をいただいたこと共有いたします。

「高本教育長」 アンケートに回答した生徒達自身にきちんと結果を伝えるということは、そのような観点からも意義があることだということです。よろしく願います。他にございますでしょうか。

「菅沼委員」 学校教育課の「臨床心理士などによる教育相談の充実」について伺います。自己評価が「概ね期待通りの成果を上げた」とあり、点検評価委員からの評価も「概ね良好」とあります。心理教育相談室「ゆずりは」については、臨床心理士が5名で、年間の相談件数も例年2,000件強とほぼ横ばいですが、これは5名という人員体制を鑑みると、相談受け入れもこのあたりが上限となってしまうということだと思います。ここから点検評価委員の評価を上げるためには、人員体制を強化する他にないのではないかと思います。

「高本教育長」 点検評価委員が「概ね良好」という判断をどのような観点でしたのかということに関連した質問でした。実際の相談希望はこれ以上に多かったが、人員的に対応できたのが2,000件程度であったため、そのような評価であったのかということの確認となりますが、いかがでしょうか。

「河原教育部次長」 点検評価委員からは、やはり臨床心理士の増員についてのご意

見をいただいております。季節的なものもありますが、あるシーズンになると相談希望が一気に増えて、少しお待ちいただくということが生じてしまいます。さらに、一度相談をされた方が継続した相談を希望されることも多く、その日程調整に苦慮しているところです。このような背景から、点検評価委員の評価になったものです。

「菅沼委員」 同じく学校教育課の「ICT機器を活用した授業の充実」について伺います。国によるICT支援員の配置目安が4校あたり1名とのことですが、これは小学校と中学校を別々に考えるものでしょうか。豊川市の場合、小学校26校、中学校10校の合計36校となりますので、単純に割ると市全体で9名となります。一方で、小学校と中学校を別々に考えると、人数が変わります。どのように考えるのか教えてください。

「河原教育部次長」 ICT支援員についてですが、豊川市36小中学校で単純計算すると9名となり、国の基準と照らし合わせた場合この9名が目安となります。一方で、市内に10の中学校区がありますので、その校区ごとに配置した場合は、10名となります。支援員として配置する人数は多ければ多いほど良いと思いますが、予算的な部分もありますので、効果的な運用方法を見据えながら、関係部局と調整していきたいと思っております。

「菅沼委員」 現在、元教員の方が1名、ICT支援員とされていますが、ICT支援員の条件などあったら教えてください。

「河原教育部次長」 国が示す基準の中には、必ず教職員であるというような条件はありません。ただし、豊川市としては学校現場に入りますので、学校教育に理解のある方であることが重要だと考えています。教育現場に入って子どもと直接触れ合いながらIT機器の操作を教えることもあるでしょうし、授業としてわかりやすく説明できるような方が望ましいと考えています。こういったことを考えると、教育現場に精通した教職員が望ましいのですが、実際にはIT機器に精通した教員OBを9人も10人も集めるということは現実的にかなり厳しい状況です。

「戸蒔委員」 それならば、パソコン教室などを運営されているプロの方を雇うというのはいかがでしょうか。教育現場には慣れていないかもしれませんが、教えるということを専門にやられているので。

「河原教育部次長」 そういったプロフェッショナルな人材の登用も考えていく必要があると思っております。

「高本教育長」 他にございますでしょうか。

「山田委員」 学校教育課の「ESDの視点に立つ学習活動の推進」についての提案ですが、点検評価委員からの意見にもあるように、今般レジ袋の有料化や、一部カフェでのプラスチックストローの廃止などが大きく話題になっています。学校でゴミ問題やエネルギー問題を話題とした学習を行っているのですが、世の中では予想を超える速さと勢いをもってこの取組がなされています。学校でもそのような観点も踏まえて、今後の取組をすると良いと思っております。

「菅沼委員」 生涯学習課の「生涯学習施設の活用」についても提案します。4つの

公民館と5つの生涯学習会館の年間利用者数が掲載されていますが、例えば八南公民館では、最近図書室をリニューアルしました。生涯学習指導員が、新しい本を配備したり、図書室自体をきれいにして、利用しやすいようにしました。こういったことは、きっと他の生涯学習会館や公民館でも、生涯学習指導員を中心に取り組みられているのではないかと思います。八南公民館の取組は広報とよかわでも掲載されましたが、こういった各施設の取組をうまくPRできれば、その地区の人だけが利用するのではなく、地域をまたいだ利用が促進され、利用者数が増加していくのではないかと思います。

「**林生涯学習課長**」 菅沼委員が言われたことは、現在一番の課題だと認識している部分です。生涯学習推進計画の改定を行うにあたり、昨年度市民アンケート調査を行いました。そこで課題として表れたのが、情報発信についての課題です。市民が求めている情報を発信できていないのではないかと思います。様々な情報を、若い人から年配の人にまで、アナログかデジタルかを問わずに満遍なく発信していくことが目下の課題であると認識しています。現在、そのことを検証中で、改定する計画にきちんと繋げていきたいと考えています。

「**高本教育長**」 八南公民館に限らず どの公民館・生涯学習会館もそういった努力をしていると思いますので、是非効果的なPRをしていただきたいと思います。他にありますでしょうか。特にご質問、ご意見がなければ採決を行います。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声)

「**高本教育長**」 異議なしと認めます。日程第3、第27号議案 令和元年度教育委員会事務の点検・評価報告書については原案のとおり可決いたしました。

「**高本教育長**」 続きまして、日程第4、その他報告「豊川市図書館基本計画改定に伴う市民アンケート等の実施について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

「**近藤教育部次長**」 その他報告「豊川市図書館基本計画改定に伴う市民アンケート等の実施について」を資料に基づき説明。

「**高本教育長**」 この件について、ご質疑がありましたらお願いします。

「**戸苅委員**」 今回の調査対象として6つの保育園における保護者を対象としたということですが、この世代の中で幼稚園を除外することに何か理由があったら教えてください。

「**近藤教育部次長**」 前回の調査でも市内保育園としていました。今回、計画の改定を行うにあたり比較をしながら検討するということで、前回に引き続き保育園を対象としたものです。ただし、前回2つの保育園で実施しましたが、サンプルを増やしたいということで、今回は6つの保育園としています。市内に保育園は他にも多くあり、全ての保育園を網羅できているわけではありません。幼稚園が除外となったことも、そこまでのサンプルを増やすことが出来なかったという状況です。

「戸荊委員」 保育園を2から6に増やした内訳のようなものはありますか。

「近藤教育部次長」 市内2園に加えて、旧宝飯郡4園という予定です。

「菅沼委員」 小学校や中学校 高校についてはいかがですか。

「近藤教育部次長」 小学校について前回9校だったのを10校にする以外は、前回同様に、中学校7校と高校4校とする予定です。

「菅沼委員」 前回調査と同じ学校が対象となりますか。例えば高校だと市内に6校ありますが。

「尾崎中央図書館主幹」 高校については、進学校であったり、地域であったり、立地場所によって、大きく特色が分かれています。実際の調査対象校は図書館の協議会でも議論いたしますが、統計的な観点から考えると、前回と同じ高校を対象とするのが良いのではないかと考えています。

「渡辺委員」 今回アンケートを行うにあたり、対象を中学2年生、高校2年生とそれぞれの2年生に絞っても良いのではないかという意見があったとのことですが、これは何か理由があるのですか。

「尾崎中央図書館主幹」 前回のアンケート調査では、中学、高校ともに2年生と比較し1年生、3年生の読書率が低いことが分かりました。学校の先生との議論の中で感じたことですが、それぞれ1年生の時は学校の環境が変わって入学したばかりなので余裕がなく、3年生になると受験の時期となりますので、本を読みたくても読めないという状況のようです。一方で、2年生は学校にも馴染んできて、受験までもまだ時間があるということで、学校図書館を利用しやすいし、本を読む時間があるということではないかと思えます。そういったことから、2年生に絞ってアンケートしても良いのではないかという議論もありましたが、1年生と3年生の読書率が今回も同様の結果となるのかを分析する必要もあるのではないかということで、前回同様の全学年を対象範囲とすることとなりました。

「渡辺委員」 学年の一つのクラスを選ぶのは 学校側が任意で選択するのですか。

「尾崎中央図書館主幹」 そうです。

「高本教育長」 親と子どもの両方にアンケートを行うということで、興味深い結果が出るかもしれません。親は自分の子どもは本が好きだと思っても、子どもの回答が違うということもあるかもしれません。他にありませんでしょうか。特になければ、「豊川市図書館基本計画改定に伴う市民アンケート等の実施について」の報告は以上とさせていただきます。

本日の会議に付議されました案件は以上ですので、これで本委員会は閉会といたします。

(午後4時06分 閉会)

この議事録は真正であることを認め、ここに署名する。

教 育 委 員

教 育 委 員